■屋内緑化コンクール2026　受賞結果一覧

授賞作品の選定においては、賞をご提供いただく団体にふさわしい作品を選びま　審査委員：町田ひろ子　町田ひろ子アカデミー代表取締役（審査委員長）　飯島 健太郎　東京都市大学総合研究所教授
審査日：2026年6月23日　豊田　正博　兵庫県立淡路景観園芸学校 客員教授　槇島みどり　東京農業大学客員教授 景観デザイナー
応募点数：作品部門65件　緑の取り組み部門18件　計83件　梛野 良明　公益財団法人都市緑化機構 専務理事　前田 悟　屋内緑化推進協議会会長

	授賞	No	タイトル	所在地	受賞者	受賞理由
作品部門（A）	農林水産省農産局長賞	A-46	福岡市地下鉄コンコース緑化～Green Link Fukuoka～	福岡県 福岡市	大和リース株式会社　福岡支社 福岡市交通局 株式会社アービカルネット 安藤造園土木株式会社 株式会社プラネット	福岡市地下鉄4駅のコンコースを対象に、みどりが人やまちをつなぐ「Green Link」をコンセプトとした屋内緑化を整備している。地下鉄ネットワークの連続した移動体験で、駅ごとに異なる表情の緑が現れ、福岡の魅力を段階的に感じ取れる構成としている。植物に加え、木調素材や化粧パネル等を組み合わせて「緑の風景」として成立させ、さらに光や音の演出を取り入れることで通過するだけでも印象に残る体験となる構成としている。展示は全て活きた植物であり、植物育成用LEDランプで生育を維持している。「みんなで育む」という考え方のもと、緑への関心や理解を高める「植育」の場として位置づけ、挿し木イベントや、育成のプロセスを共有することで、まちの取組として広がるきっかけをつくっている。維持管理に市民ボランティア・企業ボランティアが参画する維持管理の仕組みの構築を目指している。これらは、全国に広げて行きたい取り組みといえるため農林水産省農産局長賞に選ばれました。
	公益財団法人都市緑化機構賞	A-1	都市地下空間における環境改善型屋内グリーンインフラ　往十里駅「地下の森の道」プロジェクト	大韓民国 ソウル特別市 城東区	株式会社韓国都市緑化 大韓民国　ソウル特別市 城東区庁	ソウル・往十里（ワンシムニ）駅は地下鉄4路線が交差し1日約25万人が往来する乗換駅であり、地下1階コンコースに造成された 公共室内庭園である。ソウル特別市「ソウル・アレスプキル」政策事業として、ソウル特別市・城東区・ソウル交通公社の3者協働により開園した。外気の流入により冬季最低マイナス15度まで低下する半屋外環境であるが、乗換の市民に安らぎと心地よさを届けるため、柱・壁面・プランターを組み合わせ多層の緑地を構築している。設計・施工・植栽・維持管理の全工程を単一チームが責任を持って遂行することで、設計意図が維持管理まで一貫して引き継がれる体制を確保した。植物生育用LEDを設置して生育に必要な光環境を確保し、冬季には外気遮断パネルを設置し、植物が冷気に直接さらされるのを防いでいる。移動の空間を滞在の空間へと転換することが都市公共緑化の目指す処であり、都市緑化の進むべき方向性を示すものとして（公財）都市緑化機構賞に選ばれました。
	一般社団法人日本インドア・グリーン協会理事長賞	A-5	トヨタ自動車 次世代BEV 開発部門 Genki 空間®	愛知県 豊田市	株式会社パーク・コーポレーション parkERs トヨタ自動車株式会社	トヨタ自動車の電気自動車（EV）事業の専門組織「次世代BEV 開発部門」オフィスの一画。トヨタ自動車株式会社 未来創生センターとparkERs が共同で進めるGenki 空間®研究において、空間デザインの提案および施工に携わってきたことで得られた実験の成果を、今回のオフィス空間に反映している。癒し効果が期待される植物で空間を構成し、森の中に潜っていくような、身を隠せるような包まれ感でグラデーションをつけたレイアウトとした。50 種類以上の植物の葉の形状（丸み、直線性、大きさ等）を解析し、「癒し」や「集中」などの指標に基づいた植栽配置を行っている。水盤導入で、水音や水面のゆらぎによるメンタルケア効果を付加している。家具やプランターに自然素材やアースカラーを採用し、植物や葉影を引き立たせる照明計画と一体化したデザインとしている。緑の持つ人に対する効果・効用を最大限に生かした事例であり、（一社）日本インドア・グリーン協会理事長賞に選ばれました。
	公益社団法人日本家庭園芸普及協会会長賞	A-49	東神開発(株)本社オフィス	東京都 世田谷区	東神開発株式会社 株式会社イトーキ 株式会社グリーン・ワイズ	「みんなでつくるコミュニケーションオフィス」というコンセプトのもと、東神開発(株)本社オフィスをリニューアルした。人的資本経営の重要性が高まる中、働く人のエンゲージメント向上を目指し、出社したくなるオフィス環境を整えている。エントランス、リフレッシュスペース、執務エリアにグリーンのある風景を連続的に配置し、視線を変える、仕切る、つなぐといった空間構成を、家具と生木のグリーンで実現している。さらに、グリーンをテーマとしたワークショップを通じて社員同士の交流を促し、自然や環境への意識を共有・醸成する取り組みを行っている。世代や部署を超えたコミュニケーションが活性化し、空間は単なる業務の場から、人の健康にも配慮した運用一体型の体験価値のある場へと転換している。緑を通じて人の行動や意識に変化をもたらし、空間価値と企業価値の双方を持続的に高める仕組みを構築した事例として、（公社）日本家庭園芸普及協会会長賞に選ばれました。
	一般社団法人日本ハンギングバスケット協会理事長賞	A-56	自然環境と技術が調和する温浴緑化デザイン	大阪府 豊中市	株式会社ビーバーレコード 株式会社山﨑健太郎デザインワークショップ 株式会社日比谷花壇	服部緑地公園に隣接する施設で、目の前に広がる竹林を鏡面天井によって室内へ反射し、垂直方向の空間拡張（視覚的演出）によって実際以上の奥行と広がりを感じさせている。大小の植物を点在させ、外部の緑と連続するように配置することで、自然の中に身を置いているような体験が得られている。入浴後に寛げるソファ席や読書･仕事ができるワークスペースなど、多様な居場所を緑で繋ぎ「もう一つの公園」として過ごせる環境を作り上げている。温浴施設という“身体を整える場”に、緑によるメンタルウェルビーイングを統合し、利用者が自分のペースで過ごせる環境を整えている。全ての植栽にハイドロカルチャー基盤を採用し、土壌菌やアレルゲンの排除、不快害虫の発生抑制を徹底し、飲食エリアや素足で過ごす空間に「高水準な衛生性」と緑化を両立させている。メンテナンスコスト低減と、長期的な健全育成を実現させた事例として、（一社）日本ハンギングバスケット協会理事長賞に選ばれました。
	一般社団法人屋内緑化推進協議会会長賞	A-39	屋内緑化と地域木材とが協創しあう人が活きる場	東京都 中央区	戸田建設株式会社 株式会社清和ビジネス 株式会社丹青社 株式会社オリザ	総合建設会社の戸田建設が新社屋を新築し、8階～12階に新たな戸田建設オフィスTODA CREATIVE LABを開設した。未来を創造し社会課題を解決する総合建設企業として、「人が活きる場」をコンセプトに、社員の自発的な行動を促し、コラボレーションを活性化させ、人の出会いから育まれる多様な結びつきが協奏する場を創り上げた。社員の健康性、快適性と生産・創造性の両立を目指した結果、「人間の健康」の視点で評価・認証するWELL認証で最高ランクのPLATINUM（プラチナ）を取得している。執務エリアでは、全席から緑を感じられる視認性を重視し、植栽の配置や樹高を計画し、屋内緑化によるストレス軽減、落ち着きの向上を図る空間設計とした。さらに、社員の活動拠点となる人が活きる場は、什器素材や植栽を工夫し、個性の違いを表現した。OAフロアを活用し、屋内でも地植えのような自然な植栽表現を実現している。建設業を生かした手法が評価され、（一社）屋内緑化推進協議会会長賞に選ばれました。
	一般社団法人屋内緑化推進協議会努力賞	A-60	ニュウマン高輪 LUFTBAUM 株式会社　ルミネ	東京都 港区	FUGA TOKYO株式会社 株式会社　ルミネ	ニュウマン高輪の28、29階にあるレストランフロア「LUFTBAUM（ルフトバウム）」に「100年先を見据えた場づくり」という理念の下、商業施設の枠を超え植物と人が共に生きる都市の新しい姿を掲示した。自然と人、商業と文化、個人と公共が響きあう場所として構成されている。あえて通路にはみ出るように配置した植栽や飛び出すように植えられた木々によって、訪れた人々に新しいグリーン体験を提供している。表現したい世界観と迫力に対し、天井高が低いため生産者の方にも協力いただきサイズの調整をして、迫力のある緑空間を都会のビルの高層階で表現することができた。人工照明には植物育成プログラムを導入し、24時間色を調整しながら稼働させ、日中はかなり暗い照明となるため、夜間に育成用の明るい白の光を当てている昼夜逆転の照明プログラムとしている。挑戦的な屋内緑化であるが、課題も見られ今後の発展を期待して（一社）屋内緑化推進協議会努力賞に選ばれました。

	授賞名	No	タイトル	所在地	受賞者	受賞理由
緑の取り組み部門	公益財団法人都市緑化機構賞	B-5	IndoorParkモニタリングシステム（IMoS）	東京都 港区	株式会社パーク・コーポレーション parkERs 日本特殊陶業株式会社	「Indoor Park モニタリングシステム」（以下、IMoS ）は、IoT を取り入れたBtoB 向け室内緑化オートメーション管理システムである。IMoS は「屋内用自動潅水機能」と「室内環境モニタリング」２つの機能を備えている。自動潅水機能においては、排水機能がない屋内においてもミリ単位で水位を管理し、適切なタイミング、適切な水量での水やりが自動化されている。また、温湿度や、照度等の室内環境が常時数値化されるため、環境要因による育成評価が定量化できる。顧客により予算や情報機密上など様々な理由で定期メンテナンスが困難なケースもあるが、IMoS を活用しながら、顧客自身による自主メンテナンスの例も増加している。また、障害者雇用の面においても、植栽メンテナンスを業務の選択肢とできないか、実証実験も進めている。単なる自動化のシステムではなく、人と植物の距離を縮め、植物のある空間が提供できるシステムが開発されているとして、（公財）都市緑化機構賞に選ばれました。
	一般社団法人日本インドア・グリーン協会理事長賞	B-12	一緒にグリーンを育てましょう　～新芽が生まれるオフィスに～	東京都 千代田区	国土交通省道路局	職員の生産性向上と働きやすい職場環境の実現を目指し、職員有志で「働き方改革PT」を結成し、その中に「緑化部」を設け、緑視率5%以上の達成を目標とした屋内緑化に取り組んでいる。公的機関であり多額の投資は難しいが、限られた予算の中で職員自らが環境改善を進める点に本取組の独自性がある。職員直営による不要物の削減や壁面清掃で空間を創出するとともに、経費で購入する植物に加え、職員が個人で購入し育てる卓上グリーンを導入し、緑への愛着形成や意識醸成を図った。本取組は「緑化部（役職や所属を越えた有志で構成）」が中心となり、各職員の緑化活動を促進することで、組織全体の意識醸成を図っている。これらの波及効果は、景観改善にとどまらず、働きがい向上や省内外の連帯感強化にも寄与し、限られた予算でも価値を生み出せる公共部門の新たなモデルとなり得ることが示されているとして、（一社）日本インドア・グリーン協会理事長賞に選ばれました。
	公益社団法人日本家庭園芸普及協会会長賞	B-9	イノベーションパーク屋内緑化の取組	神奈川県 川崎市	NECフレンドリースタフ株式会社 グリーンコンチネンタル株式会社	NECは、イノベーション創出拠点として「NECイノベーションパーク」を2026年4月にオープンした。個人の生産性や創造性の向上に加えチームの協働を促進し、さらには社外のパートナー企業との共創が自然に生まれるようなバイオフィリックな環境を植物で実現することを屋内緑化方針とし取り組んでいる。植物調達は市場調達に加え、自社ガラス温室で再生させた植物や、オフィス内で育てた植物も積極的に導入することで植物廃棄を最小限に抑える循環型運用により、屋内緑化の持続性を高めている。日々の維持管理は障害を持つ従業員による完全内製化とし、従業員はやりがいを感じながら自己成長につなげることができており、それも大きな成果になっている。「環境配慮型バイオフィリック」＝地球にやさしく植物で賑わいと癒しを実現すること、植物を大切にする、捨てられてしまう資源を有効活用し価値提供に結びつけるアップサイクルな考え方が評価され、（公社）日本家庭園芸普及協会会長賞に選ばれました。
	一般社団法人屋内緑化推進協議会会長賞	B-16	荒井学園高岡向陵高等学校 Biophilia（生命に対する愛情）を学園に広める活動	兵庫県 神戸市	荒井学園 高岡向陵高等学校 dot studio一級建築士事務所 株式会社晴香園	荒井学園高岡向陵高等学校では、生徒の主体性を育む教育活動の一環として、Biophilia(生命に対する愛情)を学園に広めるため校内緑化推進活動に取り組んでいる。バイオフィリアの考えを基に学校の生徒のみで行う日常の植栽管理に加え、月に1度、晴香園スタッフと合同で行う日を通じ、実技を交えながら管理方法について学ぶ機会を創出し、緑の大切さを伝える事業となっている。生徒の多くは、植物を育てた経験がほぼなかったが、継続的な管理活動を通じて植物に関する知識や技術を身につけ、緑の持つ力や緑がもたらす効果を実感できている。自分たちが管理する植栽が校内環境の向上につながっていることを実感することで、学校への愛着や責任感が育まれました。生徒主体の活動が後輩へ受け継がれることで、校内緑花の維持だけでなく、主体性や責任感を育む教育活動としても継続的な効果を生み出している。緑化活動が学校文化として根付きつつあり、（一社）屋内緑化推進協議会会長賞に選ばれました。
	一般社団法人屋内緑化推進協議会努力賞	B-1	段階的に進める屋内緑化による職場環境改善の取り組み― 社員の声を活かしながら育てるオフィスグリーン ―	東京都 豊島区	三和シヤッター工業株式会社 大和リース株式会社	本取組みは、無機質になりやすいオフィス空間において、社員が快適に働ける環境づくりと、来訪者に対する印象向上を目的として開始した屋内緑化の取り組みである。空間を一度に大きく変えるのではなく、課題が顕在化しやすい箇所から段階的に緑を取り入れる方針とした。完成形をあらかじめ定めるのではなく、導入後の社員の反応や評価を確認しながら、今後の展開を検討している。初期導入にあたっては、導入企業のさまざまな部門から社員が集まり、10数名程度で室内緑化に対する意見交換を実施し、緑が必要と感じる場所と目的を整理した。導入後の社員アンケートの結果からは、「空間が明るくなった」「気持ちが落ち着く」「来客時の印象が良くなったと感じる」といった評価が多く寄せられた。メンテナンス手法の更なる確立を期待し、（一社）屋内緑化推進協議会努力賞に選ばれました。